

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2019年6月

主な出来事

- 1日、故エチエンヌ・チセケディ前 UDPS 党首の公式葬儀及びミサが行われ、同日遺体はキンシャサ市近郊ンセレ地区(N' sele)の霊廟に埋葬された。
- 3日、国営鉱山企業(Gecamines)及びコンゴ国営鉄道会社(SNCC)の人事に関し、ユマ Gecamines 社会長が続投、SNCC 社はキュング UNAFEC 党首が会長に就任する大統領令が発表された。
- 12日、コミンス MONUSCO 軍副司令官は記者会見で、イスラム過激派組織 ISIL が4月以降これまでに3回、ADF の活動地域における犯行声明を出している件に関し、「国連は ADF による ISIL への関与を疑っている」と述べた。
- 14日、在コンゴ(民)米・英・加・スイスの4大使は、憲法裁判所が11日に、多くの野党議員の当選を無効とする決定を行ったのに対し、「政治的緊張の増加を残念に思う」等の共同宣言を発出した。
- 17日、野党プラットフォーム Lamuka のムブサ・ニャムウイシ RCD-K/ML 党首(元外相)は、北キブ州ベニ・ブテンボ 地区及びイツリ州の治安回復及びエボラ対策に協力するため、Lamuka の活動を中断する旨の書簡をカトゥンビ Lamuka 調整役に送付した。
- 18日、UNHCR 本部は、イツリ州で6月初旬以降、30万人を超える住民が同州の民族紛争を避けて避難していると発表した。
- 25日、ルワンバ憲法裁判所長官は、11日に憲法裁判所から当選の無効をとされた野党議員数名の議席復活を指示した。
- 30日、チセケディ大統領は、29周年の独立記念日のスピーチをイツリ州ブニャで行った。なお今年も昨年に続き軍事パレードは行われなかった。

1. 内政

(1) 故エチエンヌ・チセケディ元 UDPS 党首の葬儀・埋葬

・1日、2017年2月に亡くなったコンゴ(民)の歴史的野党政治家かつチセケディ現大統領の父親で、5月30日に2年4か月の時を経てコンゴ(民)に戻ったエチエンヌ・チセケディ前 UDPS 党首の公式葬儀及びミサが5月31日に続いて行われ、同日遺体はキンシャサ市近郊ンセレ地区(N' sele)の霊廟に埋葬された。

(2) 国営企業(Gecamines 社, SNCC 社)人事

・3日、国営鉱山企業(Gecamines)及びコンゴ国営鉄道会社(SNCC)の人事に関し、Gecamines 社はユマ会長が続投、SNCC 社はキュング UNAFEC 党首が会長に就任する大統領令が発表された。

(3) 与党 UDPS と PPRD の支持者による抗議行動

・10日、与党 UDPS 支持者は国会議事堂付近でカビラ前政権の組閣への裏取引に対する抗議行動を行い、警察は催涙ガス弾を使用して事態を収めた。翌11日には UDPS 支持者がルブンバシ市の州議会本部及び PPRD 州本部を襲撃し、事務所及び車両等の破壊・放火などを行った(10日及び11日付 AFP)。

(4) アフリカ開発銀行との農産業特区の創設

・18日、コンゴ(民)を訪問中のアデシナ・アフリカ開発銀行(AdB)は、農村開発を目的とする民間投資を巻き込んだ農産業特区の創設をチセケディ大統領とともに発表した(18日付 AFP)。

(5) サンクル州及び南ウバンギ州の州知事選挙の動向

・25日、独立国家選挙委員会(CENI)は、実施が延期されていたサンクル州と南ウバンギ州の州知事・副州知事選挙を7月10日に実施すると発表した。(当館注:南ウバンギ州知事選挙は予定どおり実施されたが、サンクル州知事選挙は再度延期となり、7月20日に実施された。)

(6) 野党の抗議行動に対するキンシャサ州政府及びチセケディ大統領の対応

・27日、野党プラットフォーム Lamuka に現在残っているリーダー5名が、汚職及び野党当選者の当選取消等に抗議すべく30日の実施を呼びかけていた平和的デモ行進に関し、ンゴビラ・キンシャサ市長は同日付書簡で、独立記念日当日であることを理由にデモ行進の実施を不許可と通達した。また、チセケディ大統領は29日にルブンバシ市で収録した RFI と France24 の合同インタビューで、キンシャサ市長によるデモ行進の不許可決定に関し、「数日前の許可された集会(当館注:23日のベンバ MLC 党首の帰国後に開催された集会を指す)では混乱が発生した訳で、自分としてはこの不許可決定に賛成である」と発言した(28日付 AFP 及び29日付 France24)。

(7) 独立記念日の式典

・30日、チセケディ大統領は、29周年の独立記念日のスピーチをイツリ州ブニヤで行った。なお今年も昨年に続き軍事パレードは行われなかった。

(8) 憲法裁判所による国民議会議員等の当選取消決定に関する動き

・11日、憲法裁判所は、国民議会議員21名及び上院議員2名の当選を無効とする決定を行った。これら23名全員が Lamuka 所属で(Lamuka 所属の国民議会議員は全33名)、同議席には異議申し立てを行っていた FCC 所属の立候補者が就任する(11日付 AFP)。
・17日、ルワンバ憲法裁判所長官はチセケディ大統領と面談し、選挙の異議申し立てに関する同裁判所の最近の決定に関し、いくつかの決定を再審する特別法廷の原則について説明した。これに先立ち野党代表団がルワンバ長官を訪れ、特別法廷の開催を求めている(17日付 RFI)。
・25日、ルワンバ憲法裁判所長官は、当選を無効とされた議員数名の議席復活を指示した(26日付 Politico.cd)。

(9) 野党の動向

ア カトゥンビ Ensemble 代表の全国訪問

・3日、野党プラットフォーム Ensemble は、先月20日にコンゴ(民)に帰国したカトゥンビ代表(元カタンガ州知事)が市民と対話するための全国訪問の予定に関する声明を発表した。20日にはキンシャサ市を訪問する。(当館注:結局、旧カタンガ州以外の訪問は取消しとなった。)
・10日、カトゥンビ Ensemble 代表の全国行脚に関し、カトゥンビ代表は同日に予定されていたゴマ市訪問について、「プライベートジェットの着陸許可がなくゴマ市入りできない」とツイッターで述べた。

イ ムブサ・ニャムウイシ RCD-K/ML 党首の動き

・17日、ムブサ・ニャムウイシ RCD-K/ML 党首(元外相)は、チセケディ大統領の要請を受け、自身の地元である北キブ州ベニ・ブテンボ 地区及びイツリ州の治安回復及びエボラ対策に協力するため、野党プラットフォーム Lamuka の活動を中断する旨の書簡をカトゥンビ Lamuka 調整役に送付した(18日付 La Libre)。

ウ ベンバ MLC 党首の動き

・23日、ベンバ MLC 党首が帰国し、キンシャサ市ンジリ地区の Sainte Therese 広場で政治集会を開催した。ベンバ党首は Lamuka のファユル E Ci De 党首と同様に「投票箱の真実(当館注:2018 年末の大統領選挙の真の当選者はチセケディ現大統領ではなくファユル候補であるとする見解)」を追求する旨発言した。なお当初、同集会は Triomphal 大通り広場で開催される予定だったが、同日にマルティール・スタジアムで、チセケディ大統領も参加したプロテスタント系の「祈りの集会」が開催されたため、MLC 側は当局からの会場の変更を求められたもの(23日付 AFP)。

2. 外交

(1)チセケディ大統領とソロ・コートジボワール元首相の会談

・5日、チセケディ大統領は、故エチエンヌ・チセケディ元 UDPS 党首の葬儀のためにコンゴ(民)を訪れていたソロ・コートジボワール元首相と会談した。同元首相はまた、マブンダ国民議会議長とも会談した(5日付ソロ元首相ツイッター)。

(2)チセケディ大統領と中国外交部部長代理の会談

・11日、チセケディ大統領は Chen Xiaodong 中国外交部部長代理と会談し、中国・コンゴ(民)プログラム調整・フォローアップ事務所を通じた二国間協力等について協議した。Xiaodong 部長代理はまた、習主席からの親書を手渡した(17日付 Jeune Afrique)。

(3)チセケディ大統領とボンゴ・ガボン大統領の会談

・11日、チセケディ大統領はガボンのリーブルビルを訪問し、ボンゴ大統領と会談した。

(4)チセケディ大統領のアフリカ開発銀行総会出席

・11日深夜、チセケディ大統領は11日から14日まで開催されたアフリカ開発銀行(AdB)総会に出席するため、赤道ギニアのマラボを訪れ、12日にはアデシナ AdB 総裁の自宅で同総裁と会談した。

(5)チセケディ大統領のタンザニア及びブルンジ訪問

・13日、チセケディ大統領は赤道ギニアからキンシャサに戻り、同日にタンザニア及びブルンジに向けて出発した。

・13日、ダルエスサラームを訪れたチセケディ大統領は、「最近、東アフリカ共同体への加盟を申請した」と発表した。関税障壁を取り去り、近隣諸国との交流を強化するのが目的(13日付 AFP)。

・14日、チセケディ大統領はブジュンブラを訪れ、ンクルンジザ大統領と会談した。

(6)チセケディ大統領とバスビー米国務次官補代理等との会談

・18日、バスビー米国務次官補代理(民主化・人権・労働局)及びミリアーノ准将(AFRICOM 副司令官)率いる米軍代表団がコンゴ(民)を訪れ、チセケディ大統領と治安、人権、汚職対策等に関し協議した(18日付大統領府ツイッター)。

(7)チセケディ大統領のザンビア訪問

・27日、チセケディ大統領は二日間のザンビア公式訪問のためルサカを訪れ、ルング大統領及びザンビア軍参謀長等と会談した(27日付大統領府ツイッター)。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1) イツリ州ジュグ地区

- ・10日、イツリ州ジュグ地区ジビティ(Zibiti)で武装集団が襲撃を行い、38名の殺害が確認された(13日付 Radio Okapi)。
- ・18日、UNHCR 本部は、イツリ州で6月初旬以降、30万人を超える住民が同州の民族紛争を避けて避難していると発表した(18日付 AFP)。
- ・18日、イツリ州ジュグ地区ワレンドゥ・ビンディ(Walendu Bindi)で2件の武力的襲撃が発生し、11名(市民8名、民兵3名)が死亡した(18日付 Radio Okapi)。
- ・25日、コンゴ(民)国軍(FARDC)の陣地が2度にわたり武装勢力の攻撃を受けた。これに関し FARDC 報道官は、16名の民兵を殺害したと発表した。同地区では最近だけで160名以上が殺害されている(25日付 AFP)。
- ・26日、コミンス MONUSCO 軍副司令官は、「非常に凶暴な殺人集団の存在が同地区での大量殺害の原因である」と記者会見で発言した。同集団の民族(レンドゥ族もしくはエマ族)については明言を避けた。これに先立ちイツリ州ブニヤ市の当局関係者は、同殺害は「レンドゥ族の利益を守ろうとするングジョロ(Ngudjolo)と呼ばれる政治・軍事セクトによるもの」と AFP に述べていた。MONUSCO 軍は FARDC と協力し、市民保護のためングジョロの掃討作戦を行う(26日付 AFP)。
- ・27日、FARDC は、17名のングジョロ民兵を殺害し、同グループ の本拠地を制圧したと発表した。同情報は MONUSCO も確認した(27日付 AFP)。

(2) 北キブ州ベニ地区

- ・3日、同日夜から4日にかけてベニ市で ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)と思われる民兵が村を襲撃し、FARDC 兵士2名を含む、少なくとも12名が殺害された(4日付 RFI)。
- ・12日、イスラム過激派組織 ISIL が4月以降これまでに3回、ADF の活動地域における犯行声明を出している件に関連し、コミンス MONUSCO 軍副司令官は記者会見で、「国連は ADF による ISIL への関与を疑っている」と述べた(12日付 AFP)。
- ・24日、ADF と関連する集団がムバウ-カマンゴ間で住民の乗ったバイクに発砲し、3名が殺害された(25日付 AFP)。

(3) 南キブ州

- ・13日、FARDC は、南キブ州フィジ地区周辺での対武装勢力作戦で、民兵9名を殺害したと発表した(13日付 AFP)。
- ・22日以降、南キブ州フィジ地区で、バニヤムレンゲに対する他部族による襲撃が発生し、4名が殺害された(25日付 AFP)。

4. その他

(1) 麻疹の流行

- ・10日、イルンガ保健相が麻疹の流行を宣言した。今年初め以降、国内23州で677の確定例が発生している(10日 AFP)。

(2) 憲法裁判所による国民議会議員等の当選取消決定に関する外交団の反応

- ・14日、在コンゴ(民)米・英・加・スイスの4大使は、憲法裁判所が最近、多くの野党議員(上院・国民議会)の当選を無効とする決定を行ったのに対し、「政治的緊張の増加を残念に思う」等の共同宣言を発出した。